



図書館だより



秋草学園高等学校 図書館



今年もあっという間に残すところ、あと2ヶ月となりました。読書週間も後半に突入しましたが、何か興味を引かれる本との出会いはあったでしょうか。前回に続き、今回の号でも今年読書週間の標語に合わせ、“ありがとう”をキーワードに本を紹介します。忙しくて読書の時間をとれないという人もいますが、心を温めてくれる本が集まっていますので、少しだけ休憩の時間を作って読んでみてもらえたら嬉しいです。

おいしいごはんに、ありがとう

913.6-I『四十九日のレシピ』

伊吹 有喜 || 著 ポプラ社

熱田乙美を亡くし、旦那の良平と娘の百合子は喪失感を抱え、日々を送っていた。そこに現れた派手な身なりの女子 井本。乙美の弟子だという井本は乙美の遺志を継いで四十九日まで二人の面倒を見に来たという。井本越しに思い出す乙美の姿や味が二人を温かく包み込む。

B913.6-3『今宵も喫茶ドードーのキッチンで。』

標野 凧 || 著 双葉社

“そろり”と名乗る店主が営むおひとりさま専用の小さなカフェ「喫茶ドードー」ここを訪れるお客は頑張りすぎて体も心もお疲れ気味の人ばかり。彼らをホッと癒してくれるのはそろりが作る“あなたの悩みに聞くメニュー”今宵はどんな料理に出会えるのでしょうか。

好きな人に、ありがとう

913.6-I『風のむこう、きみへ続く道』

飯田 雪子 || 著 双葉社

結婚をひかえた千晶は独身最後の単独長距離ツーリングの旅に出る。向かう先は目立った観光地のない場所ばかり。地名を伝えず写真を送るから、彼はますます不機嫌そう。だけど、目的地を伝えず出かけたのには理由があったのだ。大切な人を想って巡る旅の目的とは。

913.6-II『カフーを待ちわびて』

原田 マハ || 著 宝島社

“嫁に来ないか。幸せにします”^{あきお}明青が絵馬に冗談で書いた言葉。その絵馬を信じ、身一つで顔も知らない明青が暮らす島へ嫁にきた幸。状況が呑み込めず動揺する明青だったが無邪気に島での生活を楽しむ幸へ恋心が芽生える。彼は本当に幸を幸せにすることができるのか。

いろいろな形の、ありがとう

●先生から生徒へ、ありがとう

914.6-7『ありがとう、さようなら』

瀬尾 まいこ || 著 メディアファクトリー

作家 瀬尾まいこさんが国語教諭として働いていた時の日々を綴ったエッセイ。思春期まっただ中の中学生と過ごす時間には大変なこともたくさんあるけれど、彼らの優しさや明るさに励まされたり、学んだりすることも多い。それがどのエピソードからも伝わってきて、読んでいると心がほっこりとしてきます。

●夢と魔法の国での、ありがとう

689-デ『ディズニー ありがとうの神様が教えてくれたこと』

鎌田 洋 || 著 ソフトバンククリエイティブ

ディズニーランドは訪れた人々を幸せな気持ちにしてくれるテーマパーク。そこで働くキャストはいつでもおもてなしの心を持って、ゲストを笑顔で迎えてくれる。彼らのその精神はどんな教育のもとで育てられているのでしょうか。そこにはキャスト1人ひとりの大切なエピソードがあったのです。ディズニーの魅力が深まる1冊。

●愛犬・愛猫に、ありがとう

B645-I『楽しかったね、ありがとう』

石黒 由紀子 || 著 幻冬舎

平均年齢を超えて、飼い主さんとの時間を過ごしたご長寿犬、ご長寿猫たち。その出会いから別れまでに刻まれたたくさんの思い出が飼い主さんから語られています。どんな風に出会い、共にどんな時間を過ごし、最後はどんな風に見送ったのか。どのエピソードからも別れの淋しさ以上にありがとうの思いが伝わってきます。

司書の今月はこの本読みました

『トム・ソーヤーの冒険』(B933-ト 新潮社)の著者、マーク・トゥエインの言葉とされる名言に「歴史は繰り返さないが、韻を踏む」というのがあるそうです。そのまま繰り返すことはないが、よく似た事象はしばしば出現するという事らしいです。まさに今、歴史的な事象に直面した人々が何を思い、またどのように対応したのか知りたくて『ウクライナ戦争日記』(985-ス 左右社)を読みました。執筆者24人にとっての戦争勃発の記録は胸を締め付けます。8ヶ月後の今も、戦争は続いています。24人だけでなく全ての人の無事を願ってやみません。【鈴木】